

平成30年度予算（案）について
（看護系人材養成関連）

平成29年12月25日（月）
文 部 科 学 省

平成 30 年度予算（案）の概要（看護系人材養成関連）

※（ ）内は平成 29 年度予算額

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成 26 年度～）

平成 30 年度予算額（案）：770 百万円の内数（750 百万円の内数）

【概要】

高度な教育力・技術力を有する大学が核となって、我が国が抱える医療現場の諸課題等に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供できる優れた医療人材の養成を推進する。

看護系人材の養成については、大学とその実習施設である病院並びに地域医療福祉関係機関が連携を強化し、新たな教育指導体制の構築に取り組むなど、優れた看護系人材の養成プログラム・コースを構築し、全国に普及させる取組を推進する。

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（平成 29 年度～）

平成 30 年度予算額（案）：1,120 百万円の内数（1,451 百万円の内数）

【概要】

がんに係る多様な新ニーズに対応するため、ゲノム医療従事者、希少がん及び小児がんに対応出来る医療人材、ライフステージに応じたがん対策を推進する、がん専門医療人材を養成する。

看護系人材の養成については、医師等を含めたチームによる患者中心の医療を推進し、ライフステージによって異なる苦痛を和らげ、患者の社会復帰等を支援できる人材を養成する取組を推進する。

等

課題解決型高度医療人材養成プログラム

平成30年度予算額(案):
770百万円の内数

高度な教育力・技術力を有する大学が核となって、我が国が抱える医療現場の諸課題等に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供できる優れた医療人材の養成を推進する。

- 取組(1) 医師・歯科医師を対象とした人材養成プログラム(継続) 取組(2) 看護師・薬剤師等を対象とした人材養成プログラム(継続)
 取組(3) 放射線災害を含む放射線健康リスクに関する領域(継続) 取組(4) 慢性の痛みに関する領域(継続)
 取組(5) 病院経営支援領域(継続) 取組(6) 精神関連領域(新規) 取組(7) 医療チームによる災害支援領域(新規)

取組(2)のうち看護師を対象とした教育プログラムの概要

背景・課題

教員・教育指導者の不足

大学・臨床の連携の不足

地域で働く看護師の不足

卒業時の実践能力習得の不足

チーム医療の推進

チーム医療推進のための専門性の強化と役割の拡大に応えるため、学生・新卒看護師の実践能力を強化

教育と臨床の連携強化

学生・新卒看護師の実践能力を強化するため、教育と臨床が連携し、教育指導の質を向上

地域医療連携の推進

地域医療連携にかかわる業務に精通し、学生・看護師に地域医療連携の視点や実践を教育できる教育指導看護師の養成等

大学・実習病院・地域医療機関等が連携を強化し、新たな教育指導体制の構築に取り組む

卒前・卒後の一貫した教育プログラムの開発と臨床の教育指導看護師の養成

大学教員と実習先の教育指導看護師の人材交流

地域医療にも貢献できる看護師の養成

取組

<取組例>

○信州大学：「実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業」(平成26年度～)

知識を学ぶ学習プログラム、モデルプログラムを実際に体験する演習プログラム、難病やがん患者への実習に加えて、互いに異なった職場を経験する実習プログラムなどを通じて在宅療養支援リーダーを育成することにより、難病・がん・重症児など、これまで不足していた新たなニーズに対応し、在宅で安心して療養できる質の高いケアを提供するためのコアとなる看護師の育成を目指す。

○山形県立保健医療大学：「山形発・地元ナース養成プログラム」(平成26年度～)

地元論、'相互理解'連携論、ジェネラリズム看護論の新設や実習を含む既存科目の再編(学士課程教育プログラムの開発)や小規模病院等の看護師を対象とした実習指導力養成プログラムの実施(リカレント教育)などを通じ、地方の小規模病院・診療所、高齢者施設等で、地元住民の健康問題に幅広く対応できる「地元ナース」を養成する体系的仕組みを形成する。

成果

大学と実習病院等が連携し、効率的・効果的な看護師の教育を行うことで、国民に対する安心・安全な医療提供体制の構築に貢献

- 学生・新卒看護師の効果的・継続的な専門能力の習得・向上
- 優れた教育指導看護師の養成
- 教育の連携が進むことによる医療の質向上

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

平成30年度予算額（案）：1,120百万円

新たなニーズ

- ・ライフステージごとに異なった身体的問題、精神心理的問題、社会的問題が生じていることから、AYA (Adolescent and Young Adult) 世代（思春期世代と若年成人世代）や高齢者のがん対策等、他の世代も含めた「ライフステージに応じたがん対策」として、対策を講じていく必要。
- ・今後、アカデミアや企業と協力してゲノム医療の実用化に向けた取組を加速させていく必要。
- ・希少がん医療に関する医師や医療機関等の情報が不足していることや、病理診断が難しいこと、希少がんに関する臨床研究を推進するための体制が不足していること等が課題として指摘。
- ・がん看護領域の専門・認定看護師等の確保が必要。
- ・緩和医療に関する大学講座が少なく、卒前教育は不十分な状況。
- ・医学生、臨床研修医、看護学生、薬学生等への緩和ケアに関する教育・研修を推進する必要。

取組

これまでに構築された「がん医療人材養成拠点」における人材養成機能を活用し、高度がん医療人材及びライフステージに応じたがん対策を推進する人材を養成する取組を支援。

<取組例>

○新潟大学：遺伝看護PCCがんゲノム医療グローバル人材養成プログラム

（東北大学拠点「東北次世代がんプロ養成プラン」）

最新の専門的がんゲノムに関する知識の習得や海外研修などを通じ、がんゲノム医療に関する意思決定支援を診療科を超えて看護の強みを生かして継続的に行うことのできる遺伝看護専門看護師を養成する。

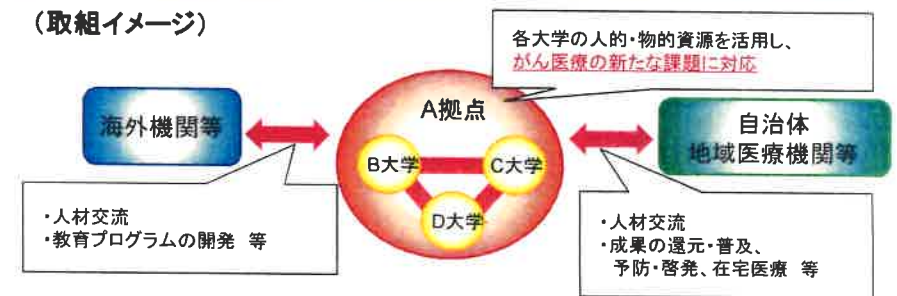
○横浜市立大学：Next Generation Oncology staff 養成インテンシブコース（東京大学拠点「がん最適化医療を実現する医療人育成」）

希少がん患者に対する看護を中心として臓器横断的な集学的治療法の治療方針、治療・ケアに必要な実践知識・技術、管理法を体得し、様々な新規治療法とその有害事象、あるいはゲノム関連の基礎的・臨床的・倫理的側面に精通し、かつ新たな視点からがん患者に寄り添い、チーム医療の要となる看護師を養成する。

○大阪府立大学：ライフステージにおける課題対応がん看護専門看護師養成コース（近畿大学拠点「7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン」）

様々なライフステージにおける課題として、就学・就労上の問題や妊孕性の問題、遺伝性がんの問題、認知症における意思決定や治療継続の問題等を講義・演習として取り上げ、実践知や研究論文など多様な学習教材を活用して効果的に問題解決できる方法について教育することにより、高度な看護実践を提供し、かつ指導的役割を果たすことで、がん医療やがん看護の質向上に貢献できる人材を養成する。

（取組イメージ）



期待される成果

ゲノム医療従事者の養成

- ・標準医療に分子生物学の成果が取り入れられることによるオーダーメイド医療への対応。
- ・ゲノム解析の推進による高額な免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬の効果的な使用による医療費コストの軽減。

希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成

- ・希少がん及び小児がんについて、患者が安心して適切な医療・支援を受けられるような様々な治療法を組み合わせ集学的医療を提供できる医療チームの育成。

ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成

- ・ライフステージによって異なる精神的苦痛、身体的苦痛、社会的苦痛といった全人的苦痛（トータルペイン）を和らげるため、医師、看護師、薬剤師、社会福祉士（ソーシャルワーカー）等のチームによる患者中心の医療を推進し、患者の社会復帰等を支援。